



認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース40号



浜辺にすむ生き物たち

ふるさと館は、緑と砂浜が広がる、大森ふるさとの浜辺公園の中にあります。身近な自然の生き物と触れあってみませんか？

*大森ふるさとの浜辺公園

大森ふるさとの浜辺公園は海水と淡水がまざり合う汽水域で、魚、海藻、エビやカニ、フジツボ、シジミやアサリなどの貝、クラゲ、鳥など……想像以上に多くの生き物がすんでいます。たとえば、初夏にやってくるコアジサシは、水面近くに泳ぐボラやハゼなどの魚を採ります。勢いよく水中へ飛び込む姿は見ものです！また、『崖の上のポニョ』に出てくるミズクラゲや、広島や宮城で有名なカキも生きています。



*浜辺公園産のアオノリ

意外かもしれませんが、お好み焼きに振りかける「アオノリ」も採れるんですよ。これはボウアオノリやスジアオノリという海藻です。海苔は採れなくなりましたが、海藻は生育しています。



ボウアオノリ

*ふるさと館の魚水槽

ふるさと館に入ると水槽があり、生き物の展示をしています。ほとんどが浜辺公園で採ったもので、子どもたちにも大人気です。日本人になじみの深いウナギもいます。6月に絶滅危惧種に指定されましたが、浜辺公園にも暮らしています。水槽では筒の中に隠れてジッとしていることが多いのですが、もう2年も生きていますよ。



また、シマシマの模様をしているコトヒキは今年の夏から仲間入りしました。ここ数カ月でぐーんと大きくなり、立派な体つきになってきました。生き物の成長も観察できるので、じっくりのぞいてみませんか？



(吉田)

*企画展「大森ふるさとの浜辺公園の生き物たち」

ふるさとの浜辺公園は、開園して8年目です。近隣住人の散歩コース、親子連れの磯遊びや浜辺の生き物探し、友達や家族のくつろぎの場など、多くの方々にも親しまれる公園になっています。

公園では、施工前から現在も継続して浜辺の生き物や水質の調査が行われています。10年近い調査によって、海の環境がどのように移り変わってきたのかが明らかになってきました。

その調査結果、標本などを使って、生き物の命を育む豊かな浜辺を紹介する展示会を行います。

期間：平成26年7月23日(水)～11月16日(日)

会場：2階展示室／観覧無料

ふるさと館で生き物の観察もしちゃおう!?

ふるさと館では海苔の歴史が学べるだけでなく、いろいろな生き物を観察することもできます。特に夏はベストシーズンです。

*ひまわり

まず皆さんをお迎えするのが、空に向かって元気よく咲いているひまわりの花々です。ゴールデンウィークに来館者の皆さんと一緒に種をまいて、育ててきました。花がお日さまのほうを向いているかどうか確かめてみましょう。



*馬込半白節なりきゅうり

館の入口近くにある緑のカーテンで栽培しているのは珍しいきゅうりです。これは明治30年代から昭和30年ころまで大田区の馬込地区で栽培されていた地域固有のきゅうりです。通称「馬込半白」と呼ばれ、実の茎近くは薄緑色で、先の半分は白くなります。実は普通のきゅうりよりしっかりしているので、漬物に適しています。



*ヨシ

水辺にみられるイネ科の植物であるヨシは、海苔を干すときに使う海苔すの材料にされてきました。地下茎でよく増え、大きなヨシ原をつくります。水につかった地下茎から栄養分を吸収するので、水をきれいにする働きがあります。栽培しているところの水はきれいかな?

*海苔網水槽

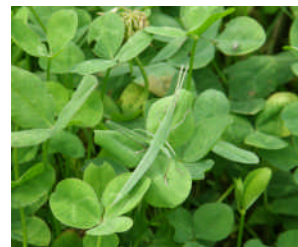
1階奥の体験学習室では実際の海苔養殖で使われている網を展示しています。ユラユラしている水中のノリを見る機会はほとんどないので、ぜひよく観察してみてください。普段目にする海苔は、この海藻を細かく刻んで四角い形にしたものです。ノリは本来、夏の間は貝がらの中に潜り込んで過ごしています。



*自然観察区域



ふるさと館前の原っぱの一面は草を刈らないで、生き物が生息できるようにしています。生息環境の種類を増やすだけで、生き物の種類が随分と増えるということがわかります。トンボやバッタ、チョウがたくさんいるので、ぜひ中に入ってみてください。(小山)



海苔のふるさと会 会員募集中!!

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。

認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」40号

平成26年8月1日発行

編集・発行 認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会
連絡先 東京都大田区

平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347